

日本組織適合性学会誌 MHC の投稿規定

I. 投稿について

内容：MHC に関する基礎研究から臨床研究まで全てを対象にし、未発表の論文、他誌に投稿中でないものに限る。

資格：著者（共著者を含む）は原則として本学会会員に限る。

倫理：ヒトおよびヒトの試料を用いた臨床研究・基礎研究の場合、1980年ヘルシンキ宣言（第18回 World Medical Assembly にて採択）に基づくと共に、当該施設の倫理委員会の承諾を得たものでなければならない。また動物を用いた研究については「実験動物の飼育及び保管等に関する基準」（1980年日本学術会議決議）などを遵守し行われた研究でなければならない。

種類：原著、総説、シリーズ、短報（研究速報、技術速報などを含む）、症例報告などとし、日本語、英語を問わない。

審査：投稿論文掲載の採否は当誌編集委員会において決定し、審査は複数の査読制で行う。審査の結果を踏まえ修正、削除、加筆などをお願いする場合がある。

著作権：本誌に掲載された論文などの著作権は日本組織適合性学会が有し、インターネットを通じて電子配信されることがある。

掲載料：掲載は無料であるが、カラー写真など特別印刷に関わる経費は著者の実費負担とする（カラー印刷を希望の場合にはその旨明記）。

別冊：別冊は有料とし、その経費は別冊部数やページ数による（別冊希望の場合は著者校正の際にその旨明記）。

II. 原著執筆書式

1. 執筆要項

400字詰め原稿用紙換算で30枚（刷り上がり12頁程度）以内とする。図、表、写真は1個につき原稿用紙1枚分に該当しタイトルを必ず記載し挿入箇所を本文に明記する。本文は Microsoft Word で作成

し、図、表、写真は Microsoft PowerPoint を使用する。原稿は全て CD ロムに保存し、CD ロムに A4 サイズでプリントアウトした原稿3部を添えて編集長宛に送付する。

2. 第1頁目

表紙とし「原著」を明記し、日本語と英語でタイトル、著者全員の氏名と所属を記し、脚注として連絡責任者の住所、氏名、電話、FAX、E-mail アドレスを記載する。タイトル、著者名、所属は下記の形式に従う。

Susceptibility gene for non-obstructive azoospermia in the HLA class II region: correlations with Y chromosome microdeletion and spermatogenesis.

Tetsuya Takao¹⁾, Akira Tsujimura¹⁾, Masaharu Sada²⁾, Reiko Goto²⁾, Minoru Koga³⁾, Yasushi Miyagawa¹⁾, Kiyomi Matsumiya¹⁾, Kazuhiko Yamada²⁾, Shiro Takahara¹⁾

- 1) Department of Urology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, Osaka, Japan
- 2) Department of Regenerative Medicine, National Cardiovascular Center, Suita, Osaka, Japan
- 3) Department of Urology, Osaka Central Hospital, Osaka, Japan

心移植における FlowPRA 法を用いた HLA 抗体検出の意義

山本 賢¹⁾, 佐藤 清¹⁾, 佐田 正晴²⁾, 永谷 憲歳²⁾, 中谷 武嗣³⁾

- 1) 国立循環器病センター臨床検査部
- 2) 国立循環器病センター再生医療部
- 3) 国立循環器病センター臓器移植部

3. 本文—1：日本語での投稿

・2頁目に400 words 以内の英文要旨（和文要旨必要なし）、日本語および英語のキーワード（5語以内）を記載する。尚、英文要旨作成については編集委員会による対応も可能（希望の場合、400字以内の日

本語要旨を記載しその旨明記)。

・3 頁目より、「はじめに」、「材料と方法」、「結果」、「考察」、「引用文献」の順に記載する。

- ①専門用語以外は常用漢字，新かなづかいに従い記述する。
- ②本文中の英単語は固有名詞を除き全て小文字で統一する。
- ③地名，人名，学名は原語のまま用い，薬品名は一般名を用い商品名は括弧内に記す。
- ④単位，数量は国際単位 (cm, ml, g, Kg, pg, μl, %, °C など) を，数字はアラビア文字を用いる。

4. 本文—2：英語での投稿

・2 頁目に 250 words 以内の要旨，キーワード (5 語以内) を記載する。

・3 頁目より，「Introduction」，「Materials and Methods」，「Results」，「Discussion」，「References」の順に記載する。

- ①地名，人名，学名は原語のまま用い，薬品名は一般名を用い商品名は括弧内に記す。
- ②単位，数量は国際単位 (cm, ml, g, Kg, pg, μl, %, °C など) を，数字はアラビア文字を用いる。

5. 引用文献

引用文献は本文中の引用箇所の右肩に片カッコ付きで番号を付し，引用順に一括し記載する。著者名，編集者名は筆頭者から 3 名まで列記し，他または *et al.* とする。

1. Shi Y, Yoshihara F, Nakahama H, *et al.*: A novel immunosuppressant FTY720 ameliorates proteinuria and alterations of intrarenal adrenomedullin in rats with autoimmune glomerulonephritis. *Regulatory Peptides* (127): 233–238, 2005.

2. Tongio M, Abbal M, Bignon JD, *et al.*: ASH#18: HLA-DPB1. *Genetic diversity of HLA Functional and Medical Implication* (ed. Charron D), Medical and Scientific International Publisher, p. 134–136, 1997.

3. 難波行臣，今尾哲也，石黒 伸 他：既存抗体陽性生体腎移植後に生じた抗体関連型拒絶反応に対

して血漿交換および免疫グロブリン大量療法 (IVIG) が奏効した 1 例. *血管外科* 17: 36–40, 2005.

4. 佐田正晴，高原史郎：腎移植—組織適合と拒絶反応. *新図説泌尿器科学講座 6「腎疾患，神経泌尿器科，老年泌尿器科」* (吉田 修 監)，Medical View 社，p. 120–125, 2000.

III. 短報 (研究速報，技術速報などを含む)，症例報告執筆書式

1. 執筆要項

400 字詰め原稿用紙換算で 15 枚 (刷り上がり 6 頁程度) 以内とする。図，表，写真は 1 個につき原稿用紙 1 枚分に該当しタイトルを必ず記載し挿入箇所を本文に明記する。本文は Microsoft Word で作成し，図，表，写真は Microsoft PowerPoint を使用する。原稿は全て CD ロムに保存し，CD ロムに A4 サイズでプリントアウトした原稿 3 部を添えて編集長宛に送付する。

2. 第 1 頁目

表紙とし「短報」「症例報告」を明記し，日本語と英語でタイトル，著者全員の氏名と所属を記し，脚注として連絡責任者の住所，氏名，電話，FAX，E-mail アドレスを記載する。タイトル，著者名，所属は「原著」の形式に従う。

3. 本文 (日本語および英語での投稿)

・2 頁目に，英文要旨 (200 words 以内)，キーワード (3 語以内) を記載。

・3 頁目以降は，原著執筆書式 3. の 3 頁目以降に準じる。

IV. 総説，シリーズその他

編集委員会からの依頼を原則とするが，会員からの投稿も大いに歓迎する。日本語を原則とする。総原稿枚数は編集委員会で指定し，原則的に原著執筆書式に準じる。

V. 原稿送付先

〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2
 大阪大学大学院医学系研究科 J8
 先端移植基盤医療学
 日本組織適合性学会誌 MHC
 編集長 高原 史郎
 担当 谷本 佳澄 <E-mail: tanimoto@att.med.osaka-u.ac.jp>
 Tel: 06-6879-3746 Fax: 06-6879-3749

	総原稿枚数 (図表, 文献含む)	図表数	文献数	要旨	原稿タイトル 所属, 著者	キーワード 数	査読	著者 校正
原著	30 枚以内	5~10個 以内	20 個以内	英文原著 英文 250 words 以内 和文原著 英文 400 words 以内	和英併記	5 個	有り	1 回
短報, 症例報告	15 枚以内	5 個以内	10 個以内	和文、英文とも英文 200 words 以内	和英併記	3 個以内	有り	1 回
総説, その他	その都度指定	適宜	20 ~ 30 個前後	和文 400 字以内	和英併記	5 個	なし	1 回

編集後記

MHC 19 巻 2 号をお届けする。この 5 月終わりから 6 月にかけてリバプールで開催された 16 回国際 HLA ワークショップ (16th International HLA and Immunogenetics Workshop (IHIW) and Conference) では、HLA 抗体と次世代シーケンサーによる HLA タイピングが二大テーマになったと聞く。いずれ本誌にも参加した一戸辰夫先生らにレポートしていただく予定である。今号は奇しくも原著に「次世代シーケンサーを用いた HLA-DRB1 遺伝子の超高解像度 DNA タイピング (Super high resolution Single molecule-Sequence Based Typing; SS-SBT) 法の開発」が東海大学の猪子グループから報告されている。略語の SS-SBT がそろそろ世間を席卷しそうである。最大のメリットはアンビギュイティ (ambiguity) の解消である。また、家族データを得なくてもハプロタイプが決められる。

HLA 抗体関連として [シリーズ: 臓器移植とクロスマッチ] がはじまったのも時宜を得たと自負している。その第 1 回として、本学会の理事である小林孝彰先生に「腎移植におけるクロスマッチ」を執筆いただいた。世界ではルミネックス法という新しい技術により得られた結果の臨床的解釈が議論され、技術的標準化の波が押し寄せている。ともすれば保守的になりがちな臓器移植界で、斬新な提案が大いに期待される。

MHC の Web 発行について鋭意検討中である。HLA の論文はデータ量が膨大になることが多く、早い Web 化が期待されている。

佐治 博夫

「MHC」バックナンバー

一冊 ¥2,000 にて購入できます。学会事務局までお問い合わせ下さい。なお在庫僅少の号もありますので、万一品切れの際にはご容赦ください。

日本組織適合性学会ホームページ

学会活動に関する情報や HLA 遺伝子の塩基配列情報が利用できます。

<http://square.umin.ac.jp/JSHI/index.html>

<http://jshi.umin.ac.jp/index.html>

学会事務局からのお知らせ

平成 23 年度総会で承認されました通り、平成 24 年度より、学会事務の一部を外部委託することとなりました。

委託業務は以下の通りです。

入退会手続

届け出事項の変更手続き

年会費請求手続き

学会誌等の発送

本年 5 月より、ご自身で会員情報にアクセスするオンラインシステムの利用が可能となりました。各種申請については、日本組織適合性学会ホームページ URL : <http://jshi.umin.ac.jp/> より行えます。

詳しくは、学会ホームページ URL : <http://jshi.umin.ac.jp/> にアクセスの上、「学会事務局からのお知らせ」をご覧ください。

また、これらに関するお問い合わせ、届け出については、学会事務支局 Email:jshi@nacoss.com にて取り扱います。

その他の学会業務に関するお問い合わせは、従来通り学会事務局にて受け付けます。

学会事務局

〒 113-8510

東京都文京区湯島 1-5-45

M&D タワー 22F

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子病態分野内

電話 : 03-5803-4906

FAX : 03-5803-4907

Email : jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp

事務支局

〒 602-8048

京都市上京区下立売通東入ル
中西印刷株式会社 学会部内

日本組織適合性学会事務支局

電話 : 075-415-3662

FAX : 075-415-3661

Email : jshi@nacoss.com

MHC

Major Histocompatibility Complex

Official Journal of Japanese Society for Histocompatibility and Immunogenetics

2012 年 8 月 10 日発行 19 卷 2 号, 2012

定価 2,000 円

発行 日本組織適合性学会 (会長 木村 彰方)

編集 日本組織適合性学会編集委員会 (編集担当理事 高原 史郎)

平成 8 年 7 月 24 日 学術刊行物認可

日本組織適合性学会 (事務局担当理事 木村 彰方)

〒 113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45 医歯学総合研究棟 (II) 22F

東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野内

印刷・中西印刷株式会社

〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル西大路町 146